



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 平出吉範 幹事 山崎秀亮 会報委員長 本島清隆 第3056回 例会2025.2.13 No.1686



2024-25年度 RI テーマ

THE MAGIC OF
ROTARY

I G M 例会

於：海老屋料理店

会長談話 平出吉範会長

皆さんこんばんは

今日はIGM (Informed Group Meeting) です。本来は主として、クラブ会員にロータリー情報を伝達するという目的で行われるものとされていますが、私たちのクラブでは懇親を図り、クラブに対しての会員の意見や要望などを聞き取る目的で行われています。

ご存じの通り、国際ロータリーの理事会ではクラブ活動の継続性を重視し、2024-2025年度をトライアル期間の初年度とし、3年間の目標と計画の立案を要望しています。

もちろんロータリーの行動計画(アクションプラン)に準じて計画されるものですので、皆さんからの意見を集約して戦略委員会で検討させていただきます。

まず、クラブの現状を分析して、どのようなクラブになりたいか考えてみて下さい。どうか活発なまた建設的なご意見をお願いします。

☆テーマ1「自己紹介」

☆テーマ2「クラブに対する要望・改善点」

例会・行事・会員拡大等

※一部抜粋にて掲載

A 班 ◎本島清隆 ○唐木 拓 大石ひとみ
唐木 章 平出吉範

A班では、改めて自己紹介に多くの時間を費やしました。そこでは、普段知ることのできない内容を知り、さらに絆を深めることができました。

続いて、短時間ではありましたが、ロータリー

行動計画の内容を平出会長より説明いただき意見交換をしました。

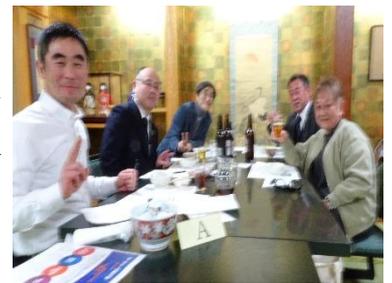
特に青少年事業の考え方や会員拡大についての方向性を会長より伺いました。

そして、最後にロータリーのあるべき姿をまとめました。

- ・自分のためになるための集まり
- ・リーダーシップを取っていただける場
- ・普段の仕事では接することのない人たちとの出会い
- ・学習できる場が、上がりました。

B 班 ◎藤本和寿 ○倉沢範行 小河節郎
小林句子 平澤泰斗

- ・ロータリー行動計画を実現するためには、さらに参加者を広げる必要がある。しかし特に女性からは「クラブ会費が障壁となっているため入会が困難である」との意見も散見されることから、従前よりも安価な会費を設定した女性や若年層を中心としたクラブ(衛星クラブ、子クラブ)を新設し、すそ野を広げる取り組みをすべきである。
- ・前述のクラブ会員については、風格や品格を維



持しつつも、例会へのリモート参加を可能とすることで、入会のハードルをさらに下げることができると受け止める。また、当クラブには納涼会やクリスマス会などのイベントに参画してもらうことで、それらの活動がより活性化するものとする。

- ・バレーボール大会や中尾歌舞伎などのイベントには、企業・団体等を招待し、ロータリークラブの活動を理解いただくとともに、その後懇親会を開催し、人脈や見識も広げていただくことで、入会への気運を高めることができると考える。
- ・バレーボール大会などのイベントは参加者（中学生など）に喜んでいただいているため、参加者の声を広くPRすることで、ロータリークラブの存在意義を理解していただくと考える。
- ・IGMについては各グループ内で検討し終了しているが、例えばロードカフェ方式を採用し、リーダー以外は食事を済ませた後30分交代で各グループを回ることにより、課題認識や解決に向けた具体的な発想をより高められると受け止める。
- ・夜間例会も活用し、ロータリークラブ行動計画実現に向けた、確実な道筋をつける必要があると考える。

C 班 ◎原 英則 ○八木 択真 唐澤洋祐
菅 靖世 山田 益

現状は、黙々と食事をして、会長談話と報告を聞くだけの場になっています。会員拡大の際にも、「何をしている団体なの？」と聞かれたときに、「お弁当を食べて、会長談話を聞いているだけ」だと勧誘しづらいものがあります。



- ・会員交流の機会を増やし、人間関係を密にする工夫がほしい
- ・例会が会員間のコミュニケーションを深める場になっていないのはもったいない。クジで席を決めており毎回違う方と接することができるので、各テーブルごとに話ができる時間を設けてはどうか。テーマを決めて、等のやり方で
- ・会員卓話が入会時のみとなっているため、先に

入会された先輩方のことがわからない。定期的に会員卓話の機会を設けて、現在の事業の状況や、苦勞していること、困っていることなどを共有できる場にすればどうか

- ・例会を地域の有力経営者の卓話が聞ける場にすれば、勧誘しやすく拡大にもつながる
- ・月に1度はざっくりばらんな夜の例会にしてみてもどうか
- ・職場例会を年2回程度に増やしてもよいのでは。会員企業だけでなく、上伊那にある会員外の企業の工場見学で学ばせてもらったり、地域外のロータリーの会員企業の会社や工場を見学させてもらう等の機会があれば、勉強になるし会員拡大にもつながる
- ・会の行事の計画について、若手や各委員会からも提案できる仕組みがあれば、全体に活気が出るのではないか
- ・上記の改善の時間を例会内で捻出するために、雑誌紹介や幹事報告は、メールや紙での共有としてはどうか

D 班 ◎鈴木正比古 ○小林国雄 赤羽弘之
中川博司 牧野由征 山崎秀亮

- ・ローターアクト、インターアクト、青少年交換等の支援団体の活動がなくなっている。



- ※ヨネヤマ奨学生の活動は別物（民間による日本の戦後賠償的な意味合いの活動）
- ※伊那中央 RC はインターアクトを継続している。要因：本来の趣旨から外れた（仲良しクラブ化）自身の費用負担でないため、真剣さが不足していた。

学校職員が煩わしく（面倒に）感じてしまう。
改善点：本来の趣旨の認識確認

組織体の理解
学校職員の入会

- 「その他」
- 問題となった活動を一回、白紙に戻して再構築していくことも重要。
- 当会が何も活動をしない状況は、当会の地域への影響力も減り、悪循環となってしまふ。